

東久留米市立南中学校 第1学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 作文の構成がしっかりできていない生徒が多い。分けるべきところで段落分けをしていないので、全体がうまくまとまらない。またよく整理してから書いていないので、途中で止まってしまう生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文を書く前に、段落構成のプリントで全体の構成を記入させる。序論、本論、結論または、起承転結の構成に合わせ骨組みを作らせる。そして構成をよく検討させたうえで、作文に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文構成のプリントと作文を添削し、全体の構成を確認する。構成を書かせてから、作文を書くことを何回か繰り返す。80%の生徒ができるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地における人々の生活の特色を自然や地域的特色に基づいて考えることができない生徒がいる。 資料から歴史に関わる情報を読み取ることができない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 白地図作業などを通して諸地域の地図上の位置や気温と降水量のグラフ、地形の特色を確認して行く。 資料集などに掲載されている資料を丁寧に読み解いて行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートや白地図の作業と提出、小テストの実施で80%の生徒ができる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 小学校での比例・反比例の学習内容の理解に差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業→小テストを繰り返し理解の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 比例・反比例のテストを実施し理解度80%以上。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具の扱い方など、小学校での学習内容に差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具の操作・使用法についての授業時間を十分に設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンステストや小テストを行い、それを評価する。80%以上の生徒が、小テストで80%を越えるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽用語の理解が不十分な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱や器楽で表現を工夫する際、身体表現を取り入れた活動などで音楽用語の動きや意味を理解しやすい授業を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の観点2の達成率が1学期よりも10%上がるようにする。 授業アンケートを実施し、「1学期よりも音楽用語の動きと意味の知識が定着した」と答える生徒が40%以上。
美術	<ul style="list-style-type: none"> すすんで丁寧に作業しようとする生徒が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 作業を実演する機会・回数を増やし、見本を見せる。各課題で1回以上、クラスを3つ以上に分割して実演する。 	<ul style="list-style-type: none"> 50%以上の生徒が、細かな指示を出さなくても、丁寧に作業できる。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> (男子) 学んだ知識を基に課題の解決方法を考えたり、次の課題を発見したりする力が不十分な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> まずは知識を確実に習得できるように、学習カードに学習情報を載せ、1単位時間ごとにポイントをしばって学習を進める。 振り返り活動を毎時間行い、課題の改善方法等を具体的に記入できていない生徒に対しては、個別に指導をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の学習カードの評価において、80%以上の生徒が中程度以上。

平成30年度 授業改善推進プラン

	<p>(女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 能力に個人差が大きく、それに伴って、種目によっては意欲を表に出さない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 課題に応じて時間を区切り、ポイントの説明とともに疑問やつまりきに対応する機会を作る。 • 見本となる生徒の動きを観察する時間を作り、イメージしやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 毎回、授業の最後に、その日学んだこと、気付いたこと等を発表させ、学習カードの評価において80%以上の生徒が中程度以上になるように指導する。
技術	<ul style="list-style-type: none"> • ものづくり(作業)に対する興味・関心は高いが、その基となる設計(製図)などについて、十分に理解できていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • ポイントを分かりやすくまとめたプリントを作り、ミスが少なくなるようにする。また、作業をグループで行い、生徒同士で作業を確認し合い完成度を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒の理解度80%以上。(定期考査) • 授業内で完成しない場合は放課後に時間を設定し、未完成で終わる生徒をゼロにする。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> • 探究心があり、疑問を解決しようという意欲がある生徒が見られる反面、集中を持続させることが難しい生徒もいる。しっかりと自分の考えをまとめ、伝えるとともに、相手の意見を聞き再考する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> • お互いに意見を交換し、自己の考えを深めて良くするために、グループワークを多く取り入れる。 • 生活の中で、問題を発見し解決方法を提案し生活をよりよくするために、レポート、発表を行う。 • グループ学習と個人の考えを深める場面の切り替えをしっかり行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 各自生活の中での課題を見つけレポート提出、概ね良好のB評価の生徒8割以上。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> • 授業で扱った英文を読めるようになって、書くことになると書けない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 繰り返し学習をさらに徹底することと、授業中に書く活動を増やすことで定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> • 小テストを定期的に行い、達成度を確認し、半数以上の生徒が7割以上。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> • 新聞づくりなどにおいて、分かりやすい掲示物をつくらんとくところまで意識がまわらない生徒も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 制作物の発表・掲示をする際に、生徒同士で制作物や発表を評価するプリントを使い、誰の新聞がなぜ分かりやすかったのか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒全員が他の人の発表を内容・声の大きさ・態度などの観点から評価し、自己の発表方法の振り返りを実施する。

東久留米市立南中学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価 (◎、○、●)
国語	・筋道を立てた論理的な構成を意識して文章を書くことが課題である。	・文章構成の型を示し、自分の言葉をあてはめて書かせる。	・意見文を書いて提出させ、評価する。(2学期1回)
	・既習の漢字もひらがなで書いてしまう生徒がいるため、定着を図りつつ語彙を増やす必要がある。	・漢字を使おうとする意欲を高めるために、漢字のもつ様々な意味や成り立ちを説明し、理解させる。	・漢字テストを行う。(週1回)
	・説明文の要約に苦手意識をもつ生徒がいる。	・文章の中心的な部分を見付けるために、意見や考えに線を引かせる。	・説明文の要約をしたワークシートを提出させ、評価する。(2学期2回)
社会	・歴史に関わる用語を別の用語と間違えて覚えている生徒が多く見られる。	・用語を年表や模式図に表わす学習活動をできるだけ多く取り入れる。	・年表、図で表わす作業を取り入れた授業を実施する。(2学期3回以上)
	・産業等の資料をもとに、日本の諸地域の特色を理解できない生徒が見られる。	・農業や工業等の資料を読み取る学習活動を丁寧に行う。	・ワークシートや白地図を提出させ、80%以上の生徒が理解している。
数学	・証明問題に対して、苦手意識をもつ生徒が多く見られる。	・証明の単元では、小テストを2回以上実施する。	・小テストの直しをさせ、全員提出する。
理科	・文章問題の正解率が低い。	・授業内で問題プリントを用いて文章問題に取り組む時間を設け、文章題に慣れるようにする。	・授業中に取り組んだ問題プリントで80%以上の生徒ができる。
	・光、力、圧力分野に関する理解が低い。	・月に1~2回程度、授業進行に支障が出ない範囲で復習のための授業を行う。	・既習事項の理解度80%以上。
	・質量保存の法則や定比例に関する計算問題など、計算を伴う問題に対して苦手意識をもっている生徒が多い。	・計算を伴う分野では、計算練習を中心とした授業を設け、計算練習をする機会を多く与える。	・達成度80%以上。
音楽	・授業内容への関心が高い生徒と低い生徒の差が大きい。	・意欲的に取り組んでいる生徒を十分に評価し、クラス全体で前向きに学習する雰囲気高める。 ・表現領域では、苦手意識をもつ生徒に対し個々に応じたアドバイスを与える。鑑賞領域では、鑑賞のポイントを焦点化し明確にする。	・各題材の振り返りの記述内容について、A評価の生徒を15人以上増やす。 ・授業アンケートを実施し、授業内容への興味関心が1学期より高まったと答える生徒が60%以上。
美術	・アイデアを出すことに苦手意識をもつ生徒がいる。	・参考作品を10パターン以上用意する。 ・2学期に1回、3学期に1回以上、参考作品を紹介する。	・80%以上の生徒が、期限までに作品の下絵を制作する。

平成30年度 授業改善推進プラン

保健体育	(男子) ・授業のねらいや、技能のポイントは理解することができるが、それらを実際に自分の体で実演することに課題をもつ生徒がいる。	・生徒の課題を的確に把握し、個々に合った体の動かし方や技能のポイントをイメージできるような言葉かけの工夫をしたり、効果的な練習方法のヒントを与えたりする。	・自己の能力に適した練習方法や場を選べるようにして、一人一人の課題を把握し、80%以上の生徒が課題を改善する。
	(女子) ・種目によって、できる生徒とできない生徒の差がある。	・基礎、基本練習をしっかりと実施し、技術の向上を図る。 ・個々の課題の把握に努め、適切なアドバイスを実施していく。	・80%以上の生徒の基礎・基本を習得する。 ・学習カードを活用して技能目標の明確化し、個々の課題を把握する。
技術	・ラジオ製作ではんだ付け作業は、ほとんどの生徒が興味をもつが、初めて経験する生徒が多く、技能は十分ではない。	・ワークシートを使ってミスしやすいポイントをあらかじめ分かりやすく説明する。また練習基板を活用して、うまくはんだ付けが出来るよう指導する。	・定期考査に理解度を判断できる問題を入れる。 ・未完成で終わる生徒をゼロにする。
家庭	・授業で学んだ事を自分の生活に生かし、向上させていく工夫をしっかりと考えられる生徒が増えた反面、とりあえず学習したという段階で終わってしまっている生徒もいる。	・各家庭状況が違う中、学習したことのどの部分をどのように生活に取り入れることで、自分の衣生活が向上するか、振り返りの中でしっかりと考えさせる。	・各自生活の中での課題を見付けレポート提出、概ね良好のB評価の生徒80%以上。
	・衣生活での「布を用いた物の製作」への取組の中で、得意意識の生徒と苦手意識の生徒の差が大きく、進度において差が出てしまう。	・毎時の各自の目標を明確にさせ、しっかりと取り組む意識をもたせる。	・製作時間内に仕上がる生徒80%以上。
外国語	・失敗を恐れ、コミュニケーションに対する態度が消極的になる傾向がある。成功体験を積み、英語で会話する意欲につなげていきたい。	・ペア活動やグループ活動をさらに増やし、会話する機会を設ける。ALTと個別に話す時間を設定する。	・スピーキングテストで中程度以上の評価の生徒70%以上。
	・聞き取る力が十分に育っていない。普段の授業や、ALTの授業のときに聞く力を育てていきたい。	・教員、ALTが英語で指示することや、説明することの概要を推測したり、理解できたりしていけるよう指導していく。	・理解度70%以上。
総合的な学習の時間	・仲間と積極的に話し合う姿勢が見られる。しかし、一部の生徒はその話し合いに消極的な部分もある。	・総合的な学習の時間は、何のために行うのか目的意識をもたせる。 ・新聞作成や発表では、見る人、聞く人を意識したまとめになるよう、助言する。	・全員の生徒が、まとめや発表を行う。

東久留米市立南中学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価 (◎、○、●)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を決められた字数で書くことができるが、書いた文章を推敲することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 推敲のポイントやよくある間違いを示し、具体的に指導をしていく。作文を書く機会のみならず、国語の授業全体で指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 感想文、スピーチの作文などから評価する。自分の意見を根拠を明示して具体的に書いている生徒が80%以上。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 権利や法律に関わる用語を間違えて覚えている生徒が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 用語を模式図や一覧表にして表す活動をできるだけ多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 模式図や一覧表で表す作業を取り入れた授業を実施する。(2学期3回以上)
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算力の定着に差が見られ、関数のグラフを含む複合問題に対して苦手意識をもっている生徒が多い。そのため、日常的に数学に触れる取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本事項と関数や図形を含む振り返りプリントを日々活用し、既習事項の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算確認テストを実施し、全員が達成度8割以上。 関数や図形のプリントを50回出題し、小テストで全員が7割以上正答。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の算数(少数・分数)ができないために、理科の学習内容までたどりつけていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルを活用し、計算の練習をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルを授業で行い、提出させ、基礎的な計算ができるようにしてから授業を展開する。 力学の正答率を70%以上。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱について、音楽表現を工夫する思いや意図をもっているが、自分の声で表現することが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 録音・録画など、自分の表現を客観的に振り返る場面を設定する。 歌唱や合唱において、息の使い方を中心に技能が向上するよう発声指導を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 合唱会自由曲を扱う授業について、最初と最後の合唱を録画し比較する。 授業アンケートを実施し、50%以上の生徒が「1学期と比べて歌唱の技能が向上した」と答える。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 絵をかくことに対して苦手意識をもつ生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期の制作では最初にPCや図書室を利用し、参考資料を探せる時間を確保する。 作品をつくるための資料や材料の持参を推奨し、授業と日常生活の一体化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期に80%以上の生徒が、資料を用意して制作に臨む。
保健体育	(男子)	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間のウォーミングアップの時から大きな声を出すように指導し、球技等の授業時に恥ずかしくがらずに声を出せるようにする。個別に評価をし、特に声が出せていない生徒に対しては個別に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中程度以上の評価の生徒60%以上。
	(女子)	<ul style="list-style-type: none"> 運動の特性等を学習カードやワークシートで学ばせ理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードの記入状況や評価テストを実施して検証する。

平成30年度 授業改善推進プラン

	知識を身に付け、実践する力に未熟な部分がある。	・視覚教材を活用する。	運動の特性を理解できる生徒が、80%以上。
技術	・作業にほとんどの生徒が興味をもつが、PCの操作方法を忘れていた生徒も多く、技能的には十分ではない。	・授業時数が少ないため、ポイントを分かりやすくまとめたプリント（ワークシート）をつくり、完成度を高める。	・定期考査に理解度を判断できる問題を入れ評価する。 ・未提出で終わる生徒をゼロにし、全員が満足できる作品に仕上げる。
家庭	・問題解決に向け、一生懸命考える生徒が多い反面、意見を発表することに苦手意識をもっている生徒も多い。	・自分の意見を発表し、他の意見を聞いたうえで、自分の考えを深めさせるため、グループワークを多く取り入れている。 ・生活の中で、問題を発見し解決方法を提案し生活をよりよくするために、レポート、発表を取り入れている。	・各自生活の中での課題を見付けレポート提出、概ね良好のB評価の生徒8割以上。
外国語	・練習問題や書くことには苦手意識がありつつも、意欲的に取り組める生徒が多いが、話すことに抵抗があり、声を出すことが苦手な生徒が多く見られる。	・ペアワークや発表の機会を増やし、更には2学期からは授業の始めに1分間スピーチを導入する。	・スピーチの発表の際の評価項目を再度伝える。(各学期) ・全員が1分間スピーチを実施する。
総合的な学習の時間	・探究的な学習に主体的・共動的に取り組む中で、学びに向かう力に課題のある生徒が見受けられる。	・探究的な学習をするときには、個別の学習をするだけでなく、班やグループで活動する場面を多く設定する。	・探究的な学習の活動はグループで行うが、まとめは個人で作成させ、全員提出させることによって検証する。